

【正誤表】令和4年度（3年度実施）神戸市立学校教員採用候補者選考試験
第1次選考 筆記試験（令和3年6月26日）実施

専門教科 養護教諭

問題番号【13】（7ページ）

「適切でないもの」を①～⑤から2つ選ぶ問題となっているが、「適切でないもの」が1つしかないため、全ての受験者について「正解」したものととして扱う

問題番号【18】（10ページ）

「適切でないもの」を選ぶ問題となっているが、全ての選択肢が「適切である」ため、全ての受験者について「正解」したものととして扱う



④ 養護教諭専門教科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「養護教諭」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から40までの通し番号になっており、例えば、25番を

25

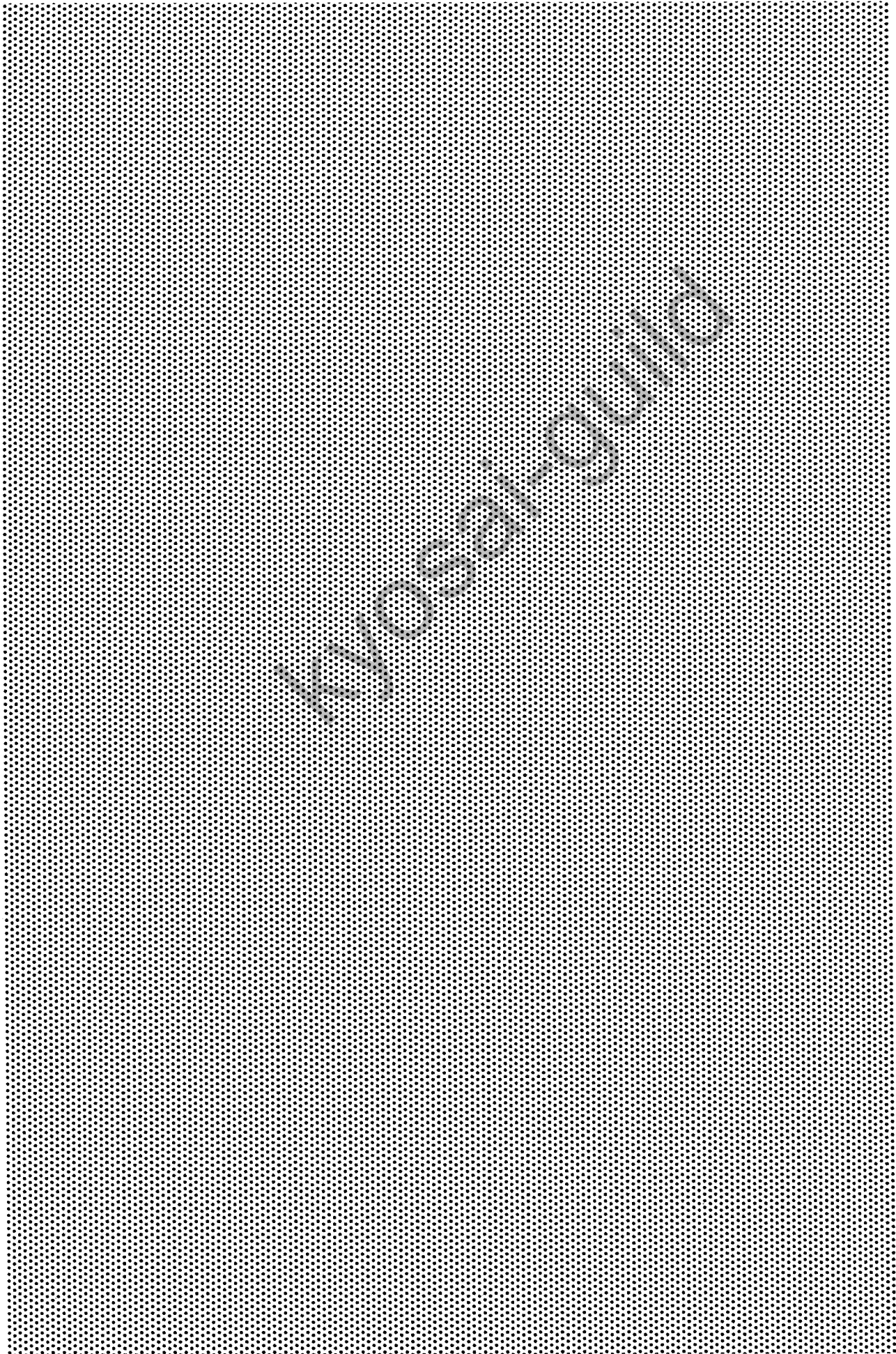
 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベ タロウ	教科名	養護教諭
名前	神戸 太郎		

数字で記入……

受験番号	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
		1 - 25		26 - 50		51
1	1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
2	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
3	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
4	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
5	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
6	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
7	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
8	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
9	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
0	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0



【1】 次の文は、「小学校学習指導要領」（平成29年3月 文部科学省）における第5学年及び第6学年の心の健康に関する記述である。文中の（a）と（b）にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。

（ア）心は、いろいろな（ a ）を通して、年齢に伴って発達すること。

（イ）心と（ b ）には、密接な関係があること。

（ウ）不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

イ 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

① 環境 ② 体 ③ 行動 ④ 学習過程 ⑤ 生活経験

(a)	(b)
1	2

【2】 次の文は、「中学校学習指導要領」（平成29年3月 文部科学省）における傷害の防止に関する記述である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

傷害の防止について、①課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。

（ア）交通事故や自然災害などによる傷害は、②人的要因や環境要因などが関わって発生すること。

（イ）交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。

（ウ）自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、③二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

（エ）応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、④包帯法などを行うこと。

イ 傷害の防止について、⑤危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

3

【3】 次の文は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第六条の一部（抜粋）である。
文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

第六条 この法律において「感染症」とは、一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び①新感染症をいう。

8 この法律において「指定感染症」とは、②国民が当該感染症に対する免疫を獲得していない感染性の疾病（一類感染症、二類感染症、三類感染症及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）であって、第三章から第七章までの規定の③全部又は一部を準用しなければ、当該疾病の④まん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるものとして⑤政令で定めるものをいう。

4

【4】 次の文は、学校保健に関する法規・法令についての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

(1) 学校保健安全法 第九条

養護教諭その他の職員は、相互に連携して、健康相談又は児童生徒等の健康状態の日常的な観察により、児童生徒等の心身の状況を把握し、健康上の問題があると認めるときは、（ア）、当該児童生徒等に対して必要な指導を行うとともに、必要に応じ、その保護者（学校教育法第十六条に規定する保護者をいう。第二十四条及び第三十条において同じ。）に対して必要な助言を行うものとする。

- ① 遅滞なく ② 治療を勧告し ③ 専門的事項について
④ 特別支援学校への就学に関し ⑤ 政令で定めるところにより

(ア)

5

(2) 学校保健安全法 第十五条

（イ）は、毎学年定期的に、学校の職員の健康診断を行わなければならない。

2 （イ）は、必要があるときは、臨時に、学校の職員の健康診断を行うものとする。

- ① 校長 ② 学校の設置者 ③ 学校医 ④ 学校保健技師 ⑤ 地方公共団体

(イ)

6

(3) 学校保健安全法施行規則 第十三条

法第十五条第一項の健康診断における検査の項目は、次のとおりとする。

- 一 身長、体重及び腹囲
- 二 視力及び聴力
- 三 結核の有無
- 四 血圧
- 五 尿
- 六 (ウ) の疾病及び異常の有無
- 七 貧血検査
- 八 肝機能検査
- 九 血中脂質検査
- 十 血糖検査
- 十一 心電図検査
- 十二 その他の疾病及び異常の有無

- ① 脊柱 ② 四肢 ③ 胃 ④ 歯及び口腔 ⑤ 眼

(ウ)

7

【5】 次の「学校環境衛生管理マニュアル」(平成30年度改訂版 文部科学省) についての問いに答えよ。

(1) 次の照度検査の基準値についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(ア) 教室及びそれに準ずる場所の照度の下限値は、①300lx (ルクス) とする。また、教室及び黒板の照度は、②500lx以上であることが望ましい。

(イ) 教室及び黒板のそれぞれの最大照度と最小照度の比は、③20:1を超えないこと。また、④10:1を超えないことが望ましい。

(ウ) コンピュータを使用する教室等の机上の照度は、⑤100～500lx程度が望ましい。

8

(2) 次の文は、騒音レベルの検査方法についての記述である。(ア)と(イ)にあてはまる適切なものを、①～⑤から選び、番号で答えよ。

普通教室に対する工作室、音楽室、廊下、給食施設及び運動場等の校内騒音の影響並びに道路その他の(ア)の影響があるかどうかを調べ騒音の影響の大きな教室を選び、児童生徒等がいない状態で、教室の窓側と廊下側で、窓を閉じたときと窓を開けたときの(イ)を測定する。

- ① 特殊な騒音源 ② 等価騒音レベル ③ 外部騒音 ④ 普通騒音 ⑤ 突発騒音

(ア)	(イ)
9	10

【6】 次の文は、自律神経の作用についての記述である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる適切なものを①～⑥から選び、番号で答えよ。

身体全体の状態は、その時の自律神経の活動の程度によって異なる。(ア)系の活動が高まると、心臓の拍動数や収縮力が増強され、(イ)の運動は抑えられ、瞳孔は散大し、骨格筋が活動するのに適した状態となる。一方(ウ)系の活動が高まると心臓拍出量は抑制され、(イ)の運動や分泌が促進される。これは、身体が活動したあと、回復に向かう状態である。

- ① 消化管 ② 脳神経 ③ 神経伝達物質 ④ 唾液腺 ⑤ 副交感神経 ⑥ 交感神経

(ア)	(イ)	(ウ)
11	12	13

【7】 次の糖尿病についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① インスリン作用の不足によりもたらされた代謝異常であり、その程度が強いほど血糖値は上昇し、口渴、多飲などの症状が強くなり、さらに悪化すると昏睡に陥る。
- ② 代謝異常が長期間続くと糖尿病特有の血管障害によって様々な合併症が発生するが、特に網膜、腎臓、末梢神経には著明な障害が起こる。
- ③ 眼の合併症として網膜症と白内障がある。
- ④ 治療の目的は、インスリン作用の不足を解消し、代謝異常をできる限り正常にコントロールして社会復帰させることである。
- ⑤ 若年者に発症者が多い2型では、インスリン注射を行う。

【8】 次の遠視、近視についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 無調節状態で、網膜より後ろに焦点を結ぶ眼を遠視という。眼軸（眼球の奥行き）が短いか、眼の光学系（角膜や水晶体）の屈折が弱いことによる。
- ② 遠視は近方のみならず遠方を見るときにも常に調節力を使うために、眼精疲労になりやすく、眼鏡を使用した方がよい。
- ③ 遠視とは逆に、無調節状態で、網膜の前で焦点を結ぶ眼を近視という。眼軸が長いのか、眼の光学系の屈折力が強いことによる。
- ④ 中等度以上の近視は、弱視や調節性内斜視の原因となることがある。
- ⑤ 近視の度が強くなると、将来、黄斑部出血・網膜剝離・緑内障等の病的変化が生じる場合があるので注意が必要である。

15

【9】 次の文は、人体の構造についての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

（1）皮膚

皮膚は、身体の表面を覆い、外界（外部環境）との境界を作っている。さらに生体を外部環境から保護し、刺激を感受する。

皮膚には、外界からの刺激を感受する種々の受容器がある。触（圧）覚、温覚、冷覚、痛覚がそれぞれ別個の（ア）によって受容される。（ア）は点状に分布しており、感覚の種類に応じて触（圧）点、温点、冷点、痛点と呼ばれる。

皮膚は表面から表皮、真皮および（イ）の三層に分けられる。

- ① 神経 ② 感覚器 ③ 皮下組織 ④ 基底層 ⑤ 乳頭層

（ア）	（イ）
16	17

（2）骨

骨は、その外形により長骨、短骨、（ウ）および含気骨に分類される。長骨は管状骨ともいい、両端の骨端とその間の骨幹とが区別され、中に骨髓を入れる髓腔がある。

- ① 骨端軟骨 ② 海綿質 ③ 尺骨 ④ 関節軟骨 ⑤ 扁平骨

（ウ）

18

【10】 次の文は、「歯及び口腔の疾病及び異常の有無」の検査についての記述である。文中の（ア）～（エ）にあてはまるものとして適切な組合せを①～⑤から選び、番号を答えよ。

- (1) 歯鏡は、鏡面に傷のない反射率の十分なもの、一定の大きさのものを使用する。使用された歯鏡の鏡面は唾液など汚れが付くので、十分に洗浄し、（ア）して使用する。
- (2) 閉口、開口状態とその顔貌変化を観察する。このときに、児童生徒等の（イ）についても、異常の有無を観察しておく。
- (3) 要観察歯C0とは、放置すると（ウ）に移行するリスクのある歯である。そのため、学校歯科医による健康相談、臨時の健康診断を行うことが望ましい。
- (4) 歯周疾患要観察者G0は、歯肉に腫脹や軽い（エ）がみられる歯肉炎であり、ブラッシング指導等を適切に行い、観察を続ける必要がある者である。

- ① ア 滅菌 イ 発育状態 ウ 咀嚼機能の低下 エ 口腔粘膜疾患
- ② ア 消毒 イ 姿勢 ウ 咀嚼機能の低下 エ 口腔粘膜疾患
- ③ ア 滅菌 イ 姿勢 ウ むし歯 エ 出血
- ④ ア 滅菌 イ 発育状態 ウ むし歯 エ 出血
- ⑤ ア 消毒 イ 発育状態 ウ むし歯 エ 出血

19

【11】 次の表は、定期健康診断の検査項目及び実施学年について表したものの一部である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

	項目	検診・検査方法	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			大学	
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
①	眼の疾病及び異常		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
②	栄養状態		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
③	心臓の疾患及び異常	心電図検査	△	◎	△	△	△	△	△	◎	△	△	◎	△	△	△	
④	結核	問診・学校医による診察		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
⑤	結核	エックス線撮影											◎			◎1学年(入学時)	

- (注) ◎ ほぼ全員に実施されるもの
△ 必要項目から除くことができるもの

20

【12】 次の文は、耳鼻科検診の準備についての記述である。適切でないものの組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 器具については、額帯鏡、ヘッドライト、鼻鏡、耳鏡、舌圧子、絵図版（音声言語診断用）、側燈、トレイ等を準備する。

イ 器具の消毒については、薬液消毒が望ましい。薬液消毒を行う場合、当然のことながら検査器具は、児童生徒等の人数分を確保する必要がある。

ウ 場所については、検査には側燈あるいはLED等の光源を使用するが、場所全体がある程度暗いことが望ましい。

エ 医師の左側には暗幕をするなどして、外界からの光を遮る必要がある。

オ 音声言語異常を検出するため、児童生徒等に音声を発せさせるので、静かな場所が要求される。そのため検査中は私語を慎むように指導する。

- ① ア、オ
- ② ア、エ
- ③ ウ、エ
- ④ イ、ウ
- ⑤ イ、エ

21

【13】 次の飛沫感染についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

飛沫感染は、唾液の水分などでコーティングされた、 $5\mu\text{m}$ より①小さな粒子（ 1m 程度で落下し空中を浮遊し続けることはない）を介する感染である。すなわち感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口や鼻から②病原体が多く含まれた小さな水滴が放出され、それを近くにいる人が吸い込むことで感染する。

飛沫感染する感染症には、インフルエンザ、③麻疹、百日咳、流行性耳下腺炎、髄膜炎菌感染症などがある。④予防接種がある感染症については、④予防接種を受けることが発症予防の手段となりうる。

咳やくしゃみをする場合は、口、鼻をティッシュなどで覆い、使用後は捨てる。ハンカチなどを使った場合は絶対に共用しない。唾液や鼻水が手についた場合は⑤流水下で石鹸を用いて洗う。

22

23

【14】 次の消毒についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 消毒は、病原微生物の数を減らすために用いられる処置法で、感染症を引き起こさない水準にまで病原微生物を殺し減少させる。
- ② 消毒は、傷口や器具等に対して行われる。
- ③ 消毒には、煮沸消毒や熱水消毒などの熱や紫外線を用いる物理的消毒法と、消毒薬を用いる化学的消毒法がある。
- ④ 各消毒薬の特性や、病原微生物の消毒抵抗性にも違いがあるため、消毒薬と病原微生物の組み合わせによっては効果が期待できない場合もある。例えば、消毒抵抗性が強いノロウイルスに対しては、アルコール消毒では十分な効果が得られないため、高圧蒸気滅菌（オートクレーブ）等を用いる必要がある。
- ⑤ 器具等を消毒薬に浸け置きした後、すすぐ場合、消毒薬が残存しないよう十分にすすぐ。

24	25
----	----

【15】 次の文は、救急処置についての記述である。(ア)～(エ)にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

(1) 直接圧迫止血法

出血しているきず口をガーゼやハンカチなどで直接強く押さえて、しばらく圧迫する。包帯を少しきつめに巻くことでも止血することができる。(ア)を起こす危険性があるので、救助者は原則としてビニール手袋やビニール袋を使用する。

- ① 嘔吐 ② 感染 ③ 意識障害 ④ けいれん ⑤ 呼吸困難

(ア)
26

(2) 頭部外傷

頭を打って外にきずが見当たらない場合、いったんは意識がはっきりしたのに再び意識が不明瞭となってきたときは、(イ)が発生した可能性が高く、特に、痙攣、(ウ)、瞳孔の左右不同などを伴ってくれば、(イ)の発生はほぼ確実と判断する。相当時間がたってから再び意識が不明瞭になることもあるので、意識を失った傷病者が意識を回復したとしても、必ず医師の診療を受けさせる必要がある。

- ① ろれつがまわらない ② 頭蓋内血腫 ③ 半身の運動麻痺 ④ 脳しんとう
⑤ 歩行困難

(イ)	(ウ)
27	28

(3) 毒虫の被害 (スズメバチ、アシナガバチの場合)

ハチに刺されると痛みと腫れが起こり、ハチ毒に過敏な人は、一匹に刺されても (エ) になり、呼吸停止を起こし死亡したりすることがある。

- ・針が残っているものは、根元から毛抜きで抜くか、横に払って落とす (針をつかむと、針の中の毒がさらに注入されることがある)。
- ・冷湿布をする。
- ・医師の診療を受けさせる。

- ① 重症熱性血小板減少症候群 ② 内出血 ③ 水疱 ④ ショック状態 ⑤ 内臓損傷

(エ)

29

【16】 次の「令和元年版 自殺対策白書」(厚生労働省)における、小学生、中学生、高校生の自殺についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 原因・動機が特定された小学生の自殺の数は非常に少ない。
- ② 男子小学生では、「学業不振」の割合が高い。
- ③ 男子中学生に関しては、「学業不振」が最も比率が高く、「家族からのしつけ・叱責」、「学校問題その他」、「その他進路に関する悩み」が続いている。
- ④ 女子中学生に関しては、「親子関係の不和」が約2割と最大の原因・動機となっている。
- ⑤ 女子高校生では、「いじめ」の比率が高い。

30

31

【17】 次の学校における医療的ケアに関する基本的な考え方についての記述のうち、適切なものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 学校で医療的ケアを行う場合には、教育委員会において、看護師等を十分確保する。
- ② 各学校においては、養護教諭等を中心に教職員等が連携協力して医療的ケアに当たること。
- ③ 看護師等及び認定特定行為業務従事者が医療的ケアを行う場合には、教育委員会の指示が必要である。
- ④ 看護師等及び教職員等による対応に当たっては、保護者から、医療的ケアの実施についての学校又は教育委員会への依頼と学校で実施することの同意について、書面で提出させること。
- ⑤ 学校で医療的ケアを行う場合には、積極的に保護者の付添いを求めることが望ましい。

32

33

【18】 次の保健教育についての記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 小学校教育においては、身近な生活における自己の健康課題に気付き、その課題解決に向けて自ら取り組み、健康な家庭や学校づくりに貢献するための資質・能力の基礎を育成することが大切である。
- ② 保健教育は、子供たちの発育・発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行われる必要がある。
- ③ 保健教育は、体育科保健領域、特別活動（学級活動、児童会活動等）、総合的な学習の時間はもとより、関連する各教科等においても、それぞれの特質に応じて行われることも考えられる。
- ④ 中学校の保健体育科保健分野は、健康・安全に関する包括的な内容について、第1学年から第3学年にかけて、系統的に、合計48単位時間程度指導することとされている。
- ⑤ 児童を取り巻く地域や家庭の環境が児童の健康に影響を与えることが少なくないことから、保健教育の推進に対する地域との連携・協働に加えて、家庭の協力も不可欠である。

34

【19】 次の表は、平成30年度の学校管理下の負傷・疾病における場合別発生割合の一部である。表中の（ア）にあてはまる適切なものを①～⑥から選び、番号で答えよ。

単位：%

	各教科等	特別活動 (除学校行事)	学校行事	(ア)
総数	31.5	4.0	5.3	21.4
小学校	29.1	8.8	3.8	47.9
中学校	26.5	2.4	5.9	11.5
高等学校等	22.6	0.8	8.2	4.2
高等専門学校	25.2	3.4	8.7	4.8
幼稚園	97.5	-	-	-
幼保連携型認定こども園	99.0	-	-	-
保育所等	99.1	-	-	-

- ① 通学中（通園中） ② 課外活動 ③ 休憩時間
- ④ 清掃時間 ⑤ 給食 ⑥ 授業終了後の特定時間中

(ア)

35

【20】 下の虐待が疑われる事例に関する症状および対応として、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

小学校4年生男子。たびたび腹痛や不定愁訴で保健室に来室する。問診をすると、朝食を食べてきていない日が多く、就寝時刻や起床時刻も不規則な傾向がある。ある時、養護教諭が、腹部の痛む箇所を確認しようと衣服をめくると、背部に直径5cmほどのあざがあった。あざができた理由を尋ねると、「転んだ」と話すが、本人の説明では状況ははっきりしなかった。学級担任に報告し、日常の様子を聞くと、最近忘れ物が多く、理由のわからない欠席や遅刻もふえ、学習に身が入らない様子があり心配していたとのことだった。

- ① 幼児児童生徒の身体に外傷（打撲傷、あざ（内出血）、骨折、刺傷、やけどなど様々）が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えることを「ネグレクト」という。外側からは簡単に見えないような場所に外傷があることも多い。
- ② 教職員は虐待と疑われる事案を発見・見聞きした場合は一人で抱え込まず、直ちに校長等管理職に相談・報告し、組織的な対応につなげていくことが重要である。
- ③ 学校や教職員は、虐待を受けたと思われる子供について、児童相談所等へ通告する義務がある。
- ④ 学校は、虐待の確証を探すことを求められているので、校内で協議と情報収集を重ね続け、慎重に対応する必要がある。
- ⑤ 虐待により、安心できない環境で生活することや、学校への登校もままならない場合があり、そのために、もともとの能力に比しても知的な発達が十分得られないことがある。

36

37

【21】下の事例を読んで、次の問いに答えよ。

【事例1】

中学校1年生女子。美術の授業中に、突然床に倒れた。養護教諭がかけつくと、呼吸はしているが、意識はなく、美術科の教師からは、「倒れた直後に体を突っ張るようにしたあと、ガタガタとけいれんしたが、数十秒でおさまった」と報告を受けた。

【事例2】

中学校3年生男子。1時間ほど前から鼻汁、咳が出ていたが、悪寒、頭痛、倦怠感が顕著になったので来室した。家庭では、弟に同様な症状があったと言っている。

体温：39.2度、鼻汁（+）、咳（+）、悪寒（+）、頭痛（+）、倦怠感（+）、咽頭痛（+）、筋肉痛（+）、腹痛（+）、発しん（-）、唾液腺の腫脹（-）、嘔吐（-）、下痢（-）

(1) 【事例1】について、医療機関に搬送するまでの救急処置として、適切でないものを①～⑤から2つ選び、番号で答えよ。

- ① 衣服のボタンをはずし、楽に呼吸ができるようにする。
- ② 保温する。
- ③ けいれんの発作中、奥歯の間に割り箸、手拭などを入れる。
- ④ 名前を呼んだり、ゆり動かして刺激を加える。
- ⑤ 発作時には倒れて体を強く打つことが多いので、全身、特に頭を打っていないかよく調べる。

38

39

(2) 悪寒や頭痛を訴えて保健室を訪れた生徒に、問診・体温測定を実施したところ、【事例2】のような状態であった。最も疑いのある疾病はどれか。①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 水痘 ② 感染性胃腸炎 ③ 流行性耳下腺炎 ④ 百日咳 ⑤ インフルエンザ

40

教科名（ 養護 ） （120点）

マーク 番号	解答	配点	備考	マーク 番号	解答	配点	備考
1	5	3		31	5	3	順不同(31)
2	2	3		32	1	3	順不同
3	4	3		33	4	3	
4	2	3		34	—	3	全員正解
5	1	3		35	3	3	
6	2	3		36	1	3	順不同
7	3	3		37	4	3	
8	5	3		38	3	3	順不同
9	3	3		39	4	3	
10	2	3		40	5	3	
11	6	3		41			
12	1	3		42			
13	5	3		43			
14	5	3		44			
15	4	3		45			
16	2	3		46			
17	3	3		47			
18	5	3		48			
19	3	3		49			
20	4	3		50			
21	5	3		51			
22	—	3	全員正解	52			
23	—	3			53		
24	2	3	順不同	54			
25	4	3			55		
26	2	3		56			
27	2	3		57			
28	3	3		58			
29	4	3		59			
30	2	3	順不同(30)	60			